

第2部

尾張旭市の現状





第1章

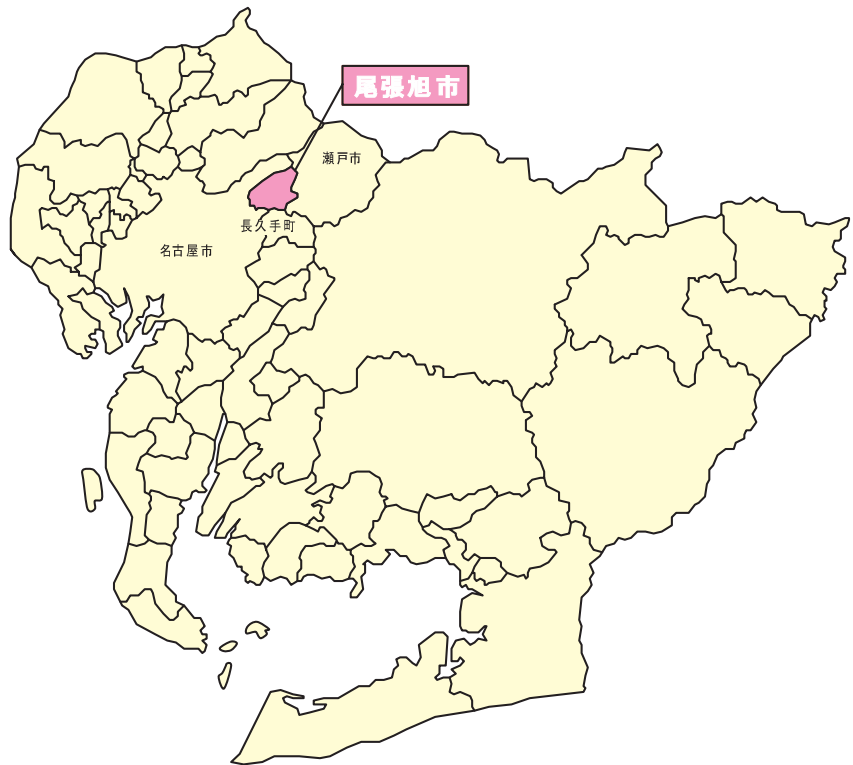
市の特性

1. 自然的特性

●位置

本市は、愛知県の北西部、濃尾平野の東部に位置し、東に瀬戸市、北と西は名古屋市、南は長久手町に接しています。

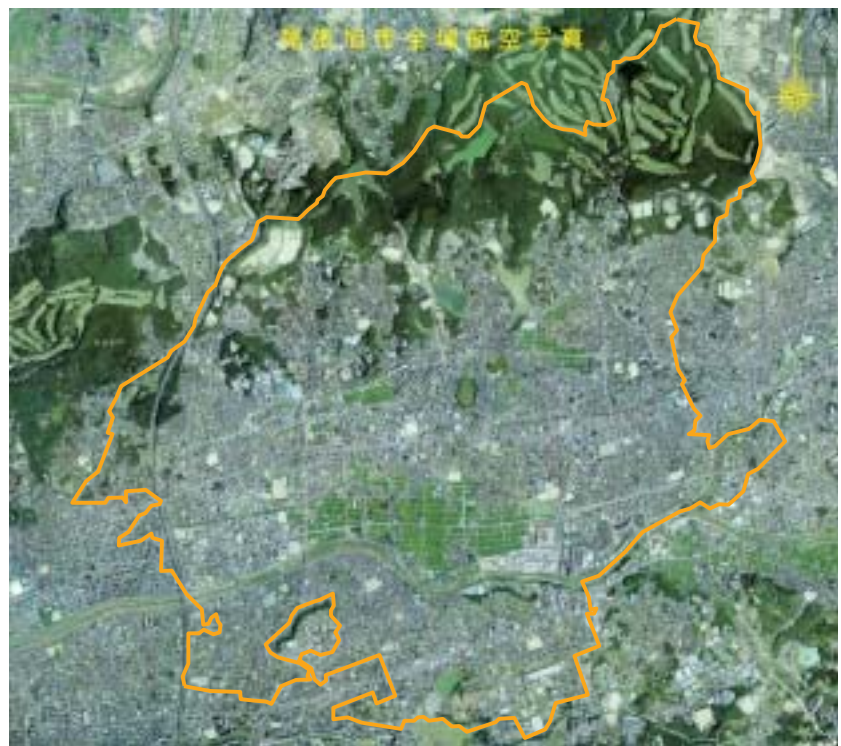
市域は、東西 5.7km、南北 5.6km、面積 21.02km² で名古屋市の中心部から約 15km と、通勤、通学などに恵まれた立地にあります。



●地形と地質

地形は、北部の丘陵地帯、中央部の沖積平野、南部の洪積台地に分かります。北部の丘陵地帯には森林公園をはじめとする緑地帯が多く、市内を東西に流れる矢田川の右岸には肥沃な沖積平野が、また、左岸には古期洪積層のたい積面が残存しています。

地質は、ほぼ水平構造であるため、断層、しゅう曲が少なく、ほとんどの地盤が洪積層で占められているのが特徴です。

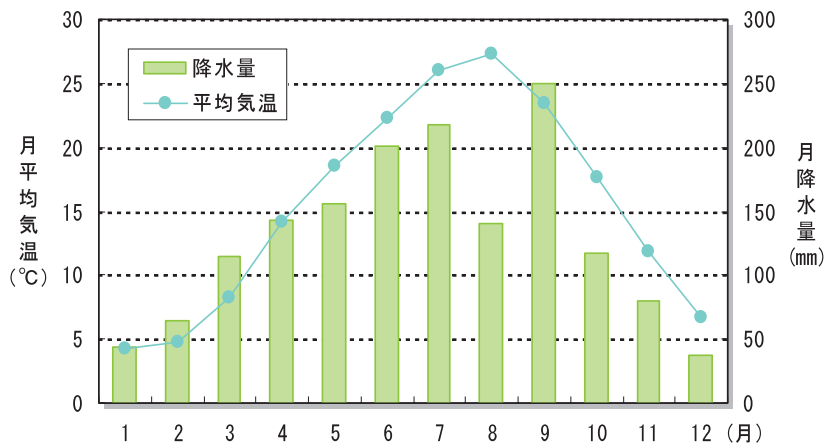




●気候

気候は比較的温暖で、年間を通じて晴れる日が多く、特に冬季は晴天が続き、降雪日もそれほど多くありません。太平洋岸の他地域に比べると、夏季の降水量は若干少なく、高温で晴天の日が長期間続くこともあります。また、冬季の気候は比較的穏やかですが、時折季節風の「伊吹おろし」が吹き、日本海側から雪を運んでくることもあります。

気温と降水量（名古屋地方気象台：1971～2000年）



資料：気象庁

環境上のポイント

名古屋市に隣接しており、名古屋市中心部までの交通の便も良いことから、住宅需要の高い地域といえます。今後も宅地の増加が考えられ、森林や農地等の自然環境を計画的に保全していく必要があります。



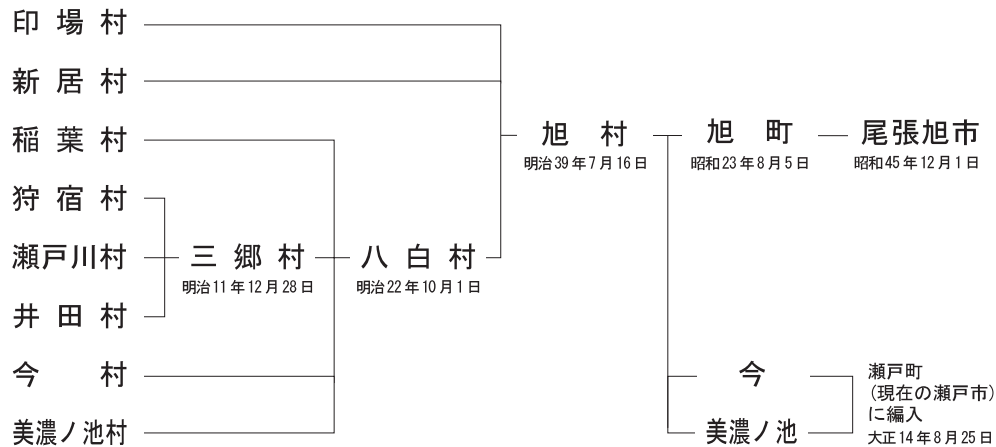
2. 歴史的特性

●沿革

本市の歴史は古く、弥生時代にはすでに居住地として使われていました。中世から近世にかけては開田、開畑が進み、農業を中心に発展を続けました。

本市域は、明治11年に狩宿村、瀬戸川村及び井田村の合併により三郷村となり、明治22年に稲葉村、三郷村、今村及び美濃ノ池村が合併して八白村となりました。さらに、明治39年には、印場村、新居村及び八白村が合併して旭村となりましたが、大正14年に今村及び美濃ノ池村が分離して、現在の瀬戸市に編入されました。その後、昭和23年に町制を施行、昭和45年には市制を施行しています。

この間、昭和初期には陶磁器産業が盛んになり、昭和30年代後半からは電気機械産業が中心となりました。その後、名古屋市との位置関係や交通の利便性などから住宅需要が増加し、住宅都市として発展を続けてきました。



環境上のポイント

現在の地区名には町村合併の名残が見られます。住宅都市として発展してきた本市では、近隣やコミュニティ※におけるつながり、地域への愛着が希薄化しています。環境問題への取り組みは、個人の日常的な配慮も必要ですが、より効果的に取り組むためには、自治会など地域単位での活動が求められます。

※コミュニティ：一定の地区に居住し、共属感情を持つ人々の集団や地域社会、共同体。

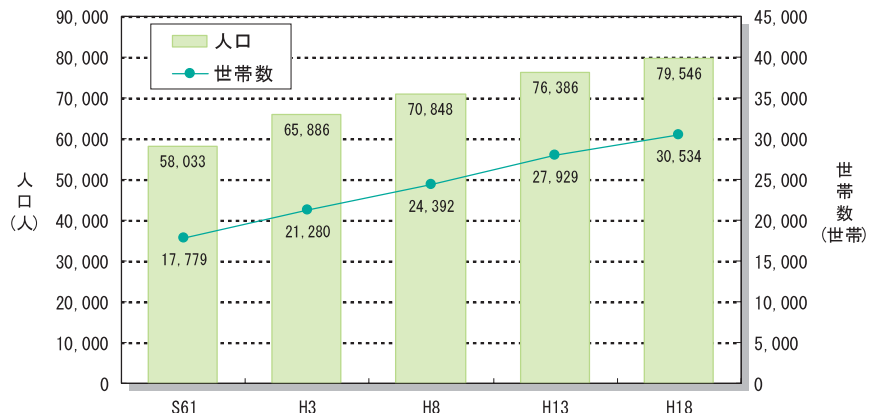


3. 社会的特性

●人口及び世帯数

人口、世帯数ともに増加し続けています。平成18年3月末現在の人口は79,546人、世帯数は30,534世帯となっています。昭和61年に3.3人であった1世帯あたり人口は、平成18年には2.6人と減少し、核家族化の進行がうかがえます。

人口及び世帯数



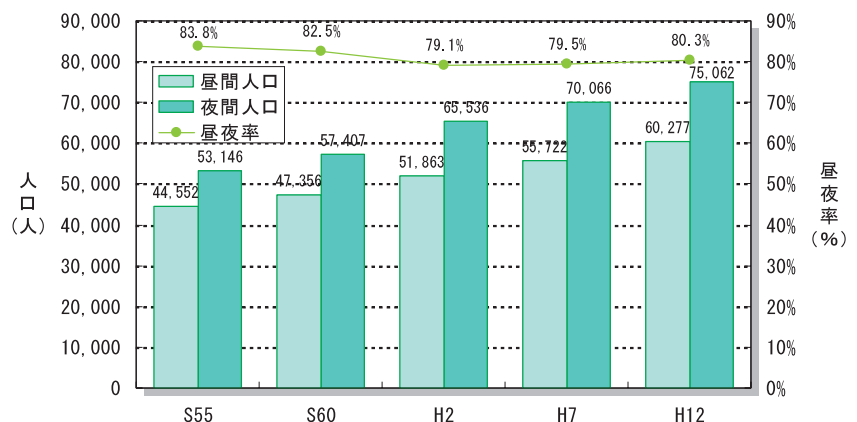
資料：尾張旭市の統計

●昼夜別人口

昼間人口が夜間人口を下回る「ベッドタウン」の特徴がみられます。昼間人口、夜間人口ともに増加を続けています。

昼間の流出先は名古屋市が最も多く、次いで瀬戸市となっています。

昼夜別人口



資料：尾張旭市の統計

環境上のポイント

人口の増加は、発生するごみや生活排水などの総量を増加させる要因となり、核家族化の進行は、エネルギー消費などの面で効率低下につながります。今後も人口増加が予想される本市においては、市全体としての環境負荷をこれ以上増やさないために、一人あたりの環境負荷を低下させる必要があります。

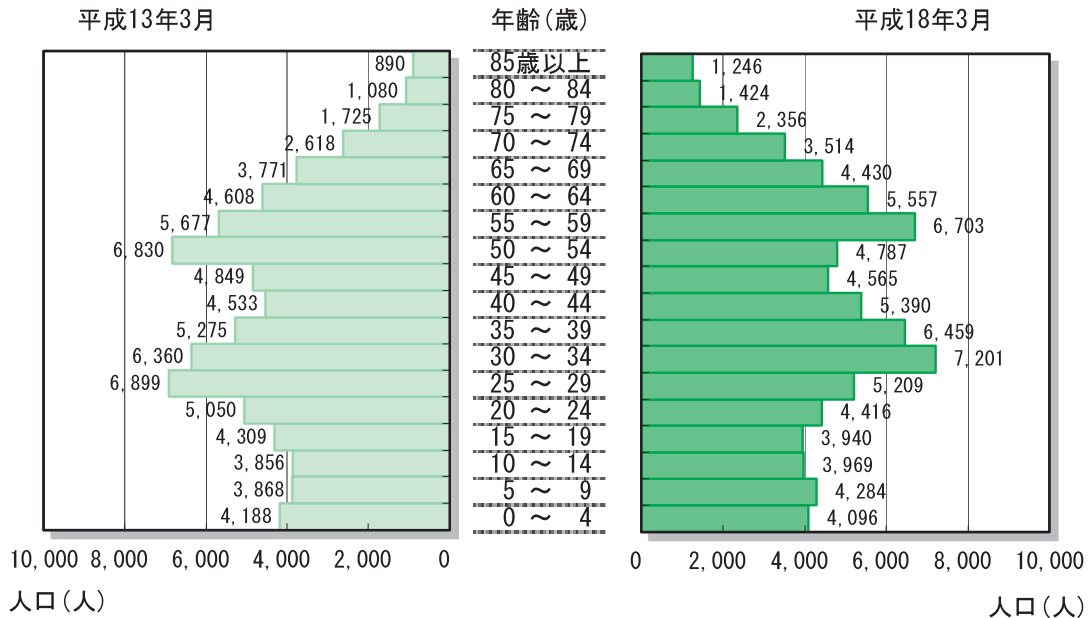
また、ベッドタウンの特徴が見られることから、市外で活動する時間の長い市民に対して、本市のごみの排出ルールの周知や地域活動への参加を促進していく必要があります。



●年齢階層別人口

平成18年3月末の年齢階層別人口は、30～34歳と55～59歳の2つの年齢層の人口が多くなっています。平成13年3月末の年齢階層別人口と比較すると、人口の多い年齢層が高齢側に移行しています。

年齢階層別人口



資料：尾張旭市の統計

環境上のポイント

本市は、これまで若い層の転入者が多く、65歳以上の老年人口の割合は比較的低い値で推移してきましたが、年々高齢化が進んでいます。

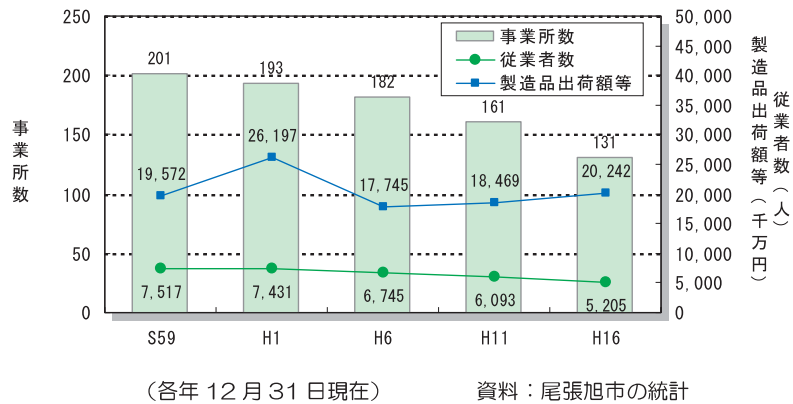
今後も高齢化の傾向が続くと予想され、だれもが気軽に出かけることができるまちづくり、活動の場や憩いの場の提供、新しい行政サービスを考えていく必要があります。



●工業

工業の状況をみると、事業所数及び従業者数は減少、製造品出荷額等は概ね横ばいの傾向にあります。

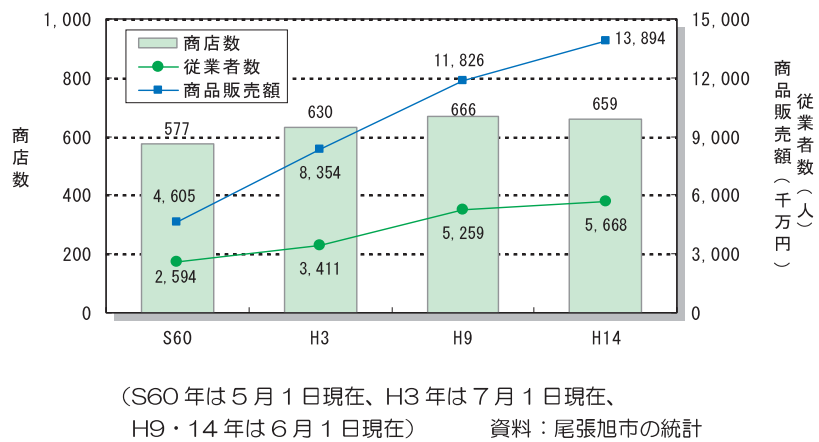
工業の状況



●商業

商店数は、平成9年まで増加し、平成14年には減少に転じています。従業者数及び商品販売額は年々増加しています。

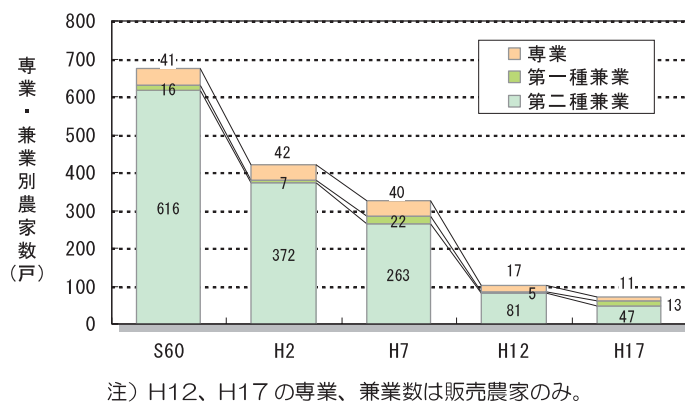
商業の状況（卸売・小売）



●農業

農家戸数は、昭和60年以降減少する傾向にあり、田・畑の経営耕地面積も減少しています。

農業の状況

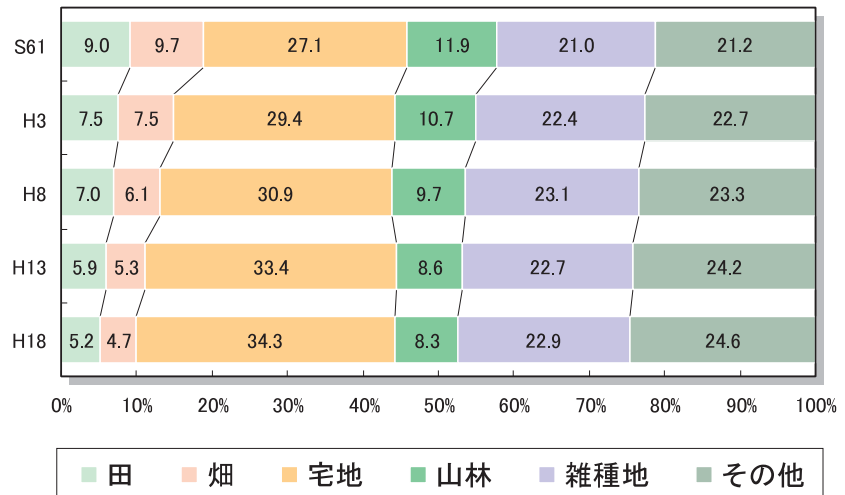




●土地利用

土地利用の経年変化をみると、田、畑、山林が減少し、宅地が増加しています。宅地が最も多く、市域の3分の1を占めています。

土地利用状況



(各年 1 月 1 日現在)

資料：尾張旭市の統計

環境上のポイント

商工業など経済の発展は、市の活性化に必要ですが、資源やエネルギーの消費、騒音などの問題といった環境面の配慮も求められます。農業については、後継者の確保が困難となっており、農地の減少傾向が続いています。農地は、環境面では農薬の適正使用などの問題もありますが、生物の生息空間や雨水貯留による災害防止など多面的な機能を有しています。また、宅地化が進行しており、市民ニーズを満たしながら自然環境も計画的に残していくことが課題になります。

今後、産業構造や土地利用の変化と環境のバランスを注視しながら、対策を講じていく必要があります。